

## 不登校をやっつける!

第3回

## 親子奮戦記

名和隆子  
(塾講師)

## 子どもがはじめた「火遊び」

●前回までのあらすじ

小学校3年生の頃、子どもが学校に行かなくなりました。不登校はさらに進み、私は中学校講師の仕事を辞め、親子で「子どもの心のクリニック」に通い始めました。

## 新たな問題「火遊び」

洋平は4年生に進級しました。新しい担任の先生は、若い元気な男の先生です。

この頃、私は再び仕事を始め、平日の日は外に出るようになっていました。朝、子どもが起きていなくても、そのまま仕事に行かなければなりませんでした。ところが、その間に洋平は、火遊びをしていたのです。ベランダのプラントナーに紙や木屑の燃えた炭が残っていて、そばにマッチが置いてあることもありました。それを隠すと、台所のガスコンロから割り箸などに火を移して、ベランダまで運んでいるようでした。

クリニックの先生に相談すると、「火を見ると気持ちが悪くするんでしょう。でも火遊びだけはやめさせないと、大変なことになりかねない。しっかり話あってね。」と言われました。私の前では、洋平は「わかった、もう絶対しない。」と約束しますが、次の日には、ベランダに新しい燃えカスが残っています。片付けずに残しているのは「火遊びがやめられないんだ」という洋平からのサインだと思い、怒鳴りたくなるのを我慢して、その都度、言いきかせました。

## 市の機関に相談したものの…

学校の先生に火遊びの話をする、ますます熱心に洋平の問題に取り組もうとしてくださいました。聞けば、私達が住んでいる市に、不登校の子どもについて相談を受けつけている機関があるとのこと。市の広報誌にも、「ここに不安や悩みをもち、登校できない小中学生に対して、支援活動を行っています。希望する人は、在籍している学校に相談し、学校を通して申し込んでください。」とあります。すでにクリニックに通っていることもあり悩みましたが、先生の強い勧めもあり、一度相談することにしました。

ところが、我が家のケースは「受け付けできない」という、予想もなかった結果になりました。理由は、他の機関ですでに相談している状況だから、とのこと。そういう決まりであれば、しかたありません。

そうしてたいした変化もありません。泣いたり、怒鳴ったり、また希望を持ったり、少しの平和を楽しんだりしながら、私と4年生の洋平との生活は続いていきました。

(つづく)